

# RACE REPORT

Japanese Endurance Race  
**Super Taikyu**

**Auto Labo**

**ENEOS** **BRIDGESTONE**

No.290 AutoLabo Racing スイフトスポーツ  
No.291 AutoLabo Racing 素ヤリス

## ENEOS スーパー耐久シリーズ2025 Empowered by BRIDGESTONE 第5戦 スーパー耐久レース in オートポリス

2025年7月25日～27日 / オートポリスインターナショナルレーシングコース

前回のSUGOからわずかに2週間あまりの期間を経て、第5戦オートポリスを迎えた。本戦はST-4クラスのスイフトスポーツとST-5Fクラスの素ヤリスの2台体制での参戦。2台体制のオペレーションは多忙ではあるものの、2台とも熟成を重ねて信頼性が向上している。「他の人がやらない車種でチャレンジする」という國松代表の信念のもと、灼熱の九州ラウンドが幕をあける。



No.291  
AutoLabo Racing 素ヤリス



Aドライバー  
吹谷 禎一郎



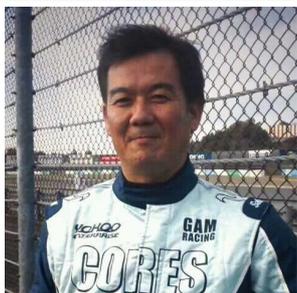
Bドライバー  
小尾 夏月



Cドライバー  
茂利 大輔



No.290  
AutoLabo Racing スイフトスポーツ



Aドライバー  
横尾 優一



Bドライバー  
伊藤 大輔



Cドライバー  
西村 和則

### 7/25(金) 占有走行

レースウィーク初日、AutoLabo Racingは全ドライバーが本日から走行となった。

No.291 素ヤリス組は3人ともオートポリスは未経験。それぞれグランツーリスモやシミュレーターで事前にトレーニングしていた。午前中に1時間設定された占有走行枠は吹谷→茂利→小尾の順で走行。茂利は早々にコツを掴み、去年の平均的なレースペースと同じ2分22秒台を刻んだ。走行後は小尾・吹谷と共に車載動画をチェックして3人で知見を共有し、午後の走行に備えた。午後に行われた占有走行は2時間。ロングランを中心にマシンの挙動確認を行い、セッティング変更もトライした。全ドライバーの走行ペースは軒並み安定し、ドライビングの基礎が出来上がった。

No.290 スイフトスポーツは、プロドライバーの伊藤選手をはじめ横尾選手・西村選手という経験豊富なベテラン揃いの布陣。いずれの選手もオートポリスの走行経験があり、安定した走行ペースでスイフトスポーツのセッティングをオートポリスへと合わせていった。オートポリスはタイトなコーナーや大小様々なRをもつ複合コーナーが多く、タイヤの摩耗がタイムに影響しやすいレイアウト。特にFF車のスイフトスポーツはフロントタイヤをいかに持たせるかが決勝でのポイントであった。



### AutoLabo Racing PARTNERS

Grand Service  
**Ryoso**



龍谷運水店



**Ride**

**YOSHINO MOTORS**

株式会社 **ミライス**

**KTC**

# RACE REPORT

Japanese Endurance Race  
**Super Taikyu**

**Auto Labo**

**ENEOS** **BRIDGESTONE**

No.290 AutoLabo Racing スイフトスポーツ  
No.291 AutoLabo Racing 素ヤリス

## 7/26 午後 予選

2Day開催となる本大会では、土曜日が予選日。午前のフリー走行では各選手、路面と車両のチェックを行った。昨夜に雨が降ったためか路面はスリッピーで挙動が全く異なっていた。

No.291 素ヤリスの予選は、Aドライバーの吹谷選手が新品タイヤでスタート。責任重大のプレッシャーを感じていたが、昨日から小尾選手・茂利選手の車載動画を観て走りのイメージを叩き込んでいた。2分18秒756という自己ベストタイムを叩き出し、チームの期待に応えた。続いてBドライバーの小尾選手も新品タイヤの性能を発揮し、2分18秒291を記録。エースドライバーとして十分な好タイムだが、17秒台も見えていたという。Cドライバーの茂利選手は昨日の中古タイヤで1周のみアタック。全クラス混走の大混雑のなか2分20秒644を記録し、Cドライバーの中では7位となった。予選結果はA・Bドライバーの総合結果で決定され、クラス8位となった。

No.290 スイフトスポーツの予選は、Aドライバーの横尾選手からスタート。横尾選手はヤリスカップの激闘の決勝を終えた直後で休む間もなく発進し、2分10秒159を記録。続いてBドライバーの伊藤大輔選手が出走するも、OBDのエラーが発生してエンジンが吹けなくなるというトラブルが発生してしまった。センサー類の故障が疑われ、これらの交換は本来30分程度を要するものの、富士24時間での経験から2~3分で交換できるように改良済みであったため、すぐに復旧。その後のCドライバー予選は西村選手が出走し、無事に2分12秒450のタイムを記録した。

## 7/27 11:00~ 決勝

決勝日の天候は、雲が出て雨がパラパラと降るかと思えば日照りもあるという複雑な天気。

No.291 素ヤリスは、吹谷選手からスタート。道幅の狭いオートポリスで上位クラスのトラフィックを避けつつ、22~23秒台の好ペースで1時間半のステントをこなした。残り3時間30分の時点で、茂利選手へ交代。22秒台の安定したペースで1時間弱のステントをこなした。タイヤの摩耗によるタイムダウンも最小限に抑えた。残り2時間30分の時点でクラス7位となり、小尾選手へ交代。その後コース上でクラッシュがありFCYが発動。無線の調子が悪くピットの声がほとんど聞こえないというトラブルが発生するも、小尾選手は國松監督の意図を汲み取り、FCYからセーフティカーに切り替わるとすぐにスプラッシュを実施するというピットワークを成功させ、タイムロスを最小限にした。残り50分の時点で茂利選手に再び交代し、やはり無線の調子が悪かったものの車内でイヤホンジャックの差し具合を調整し対応。最後までクルマをいたわり、クラス6位で完走した。

No.290 スイフトスポーツは、予選結果の関係でほぼ最後尾のグリッドから伊藤大輔選手がスタート。流石のプロドライバーと言わんばかりの2分11秒のベストタイムを記録し、序盤でクラス8位から7位へポジションアップ。43周ものロングステントをこなした。続いて横尾選手に交代し、約1時間の走行を担当。周囲のトラフィックの状況に適応しつつ淡々と周回を重ね、西村選手へと交代した。この時点でクラス7位を維持し、4位~6位との差は1周にとどめており、まだ上位進出が狙える位置であった。最後の1時間は2回目の横尾選手が担当。ところが、残り47分の時点でスイフトスポーツを再びトラブルが襲いかかり、スロー走行をせざるを得なくなった。なんとかピットまで辿り着きコースに復帰。クラス8位・総合44位でチェッカーをうけた。



▲キッズパドックウォークではスイフトが子供達に大人気！



▲決勝を走る素ヤリスとスイフト



▲全クラス混走！広い視野が必要



▲スイフトは日進月歩を重ねている



▲豊田章男会長がシート合わせ？！

### 代表コメント

今回はST-4とST-5Fの2台体制で多忙なレースウィークでした。素ヤリスは前日に引き続き安定したドライバー布陣で、安心してマシンを任せることができ、予選は厳しいですが決勝は中団に食い込む勢いを見せています。スイフトスポーツは投入初年度ながら信頼性は徐々に増しており、トラブルはありつつもスズキ自動車さんのサポートをいただきながら知見を深めています。どちらも唯一の参戦車種ということでメディア取材も多く受けておりありがたい限りですが、まだまだノウハウ蓄積は必要で、今後もメーカーさんとの協力関係を深めていきたいと思っています。



代表 國松 宏二

## AutoLabo Racing PARTNERS

Grand Service  
**Ryoso**



**YOSHINO MOTORS**

株式会社 **ミライズ**

**KTC**

**RIDE**